

【福島市】

会 議 名	平成30年7月6日臨時記者会見
日 時	平成30年7月6日（金） 午後9時40分～10時
場 所	庁議室

発言者	内 容
広報課長	<p>開会</p> <p>それでは定刻になりましたので、ただいまから臨時記者会見を始めます。それでは市長、発表をお願いいたします。</p>
市 長	<p>皆さんおはようございます。</p> <p>まず私から発表をさせていただきます。</p> <p>この度、若い世代に強い支持を得ている現代アーティスト、ヤノベケンジさんの代表作サン・チャイルドが本市に寄贈され、駅前のこむこむ館の敷地内に設置されることになりました。サン・チャイルドは、原子力災害を受けた福島の再生を願って制作された作品です。放射線量ゼロの環境で、防護服のマスクを外した男の子がほほ笑むもので、安全安心で平和な福島と、未来に向かって復興、再生していく希望をイメージしています。</p> <p>これまでこの作品は、資料にありますように、福島現代美術ビエンナーレ2012でも展示されたほか、国際芸術祭あいちトリエンナーレ2013のメインビジュアル、いわゆるメイン作品として展示されるなど、国内外で多くの展示をされました。人々に感銘を与えてきた作品です。私もこれまで倉敷の大原美術館や、茨木市に設置されている像、あるいは大阪駅前で鑑賞したことがありまして強い感銘を受けました。大阪でも道行く人が足を止め、作品に見入り、写真を撮っている姿がひっきりなしに見受けられました。私は、原子力災害を風化させることなく、未来に向け、希望を持って復興創生に取り組む福島市、そして福島県のシンボルになるものとして、喜んで寄贈いただくことにいたしました。今後サン・チャイルドに託された精神をしっかりと受け止めて、さらなる復興創生の加速に取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>また、サン・チャイルドの精神は、特に子どもたちに受け止めていただきたい、感じていただきたい、というヤノベさんの願い、そして私どもも同感でございますので、そういった面では、子どもたちが多く来館する駅前のこむこむ館の敷地内に設置することにいたしました。まだ時期は確定しておりませんが、8月の初めには除幕して、皆さんに見ていただけることになると思っておりますので、ぜひご覧をいただきたいと思っております。</p>

	<p>また資料にありますように、このサン・チャイルドの愛称を子どもたちに決めてほしいなと思って、その愛称を募集いたします。ここに書いてあります通り、市内の各学校に送付する専用はがきで申し込んでいただきたいと思います。申し込まれた方には、この缶バッジとぬりえのシートを、これもヤノベさんのオリジナルでありますけれども、差し上げたいという風に思っております。こむこむ館に持参された方に差し上げるということにいたしております。</p> <p>最後になりますが、この寄贈にあたりまして、ご協力いただきました一般財団法人ふくしま未来研究会さん、それからヤノベケンジさんに心から感謝申し上げます、今日のご報告にさせていただきたいと思います。本当にヤノベさんありがとうございました。</p>
ヤノベさん	<p>ありがとうございました。</p>
広報課長	<p>それではここで、今回ヤノベ様が制作された映像をご覧いただきながら、サン・チャイルドをご紹介します。</p>
ヤノベさん	<p>ありがとうございます。ヤノベケンジです。私は大阪生まれで、今、京都の大学でも教鞭をとっているのですが、現代美術作家としてたくさん作品をこれまで作ってきました。今、流させていただいている映像というのは、サン・チャイルドが作られてから、2018年福島に来させていただくという記録なのですが、僕自身は2010年に、震災前に福島県立美術館で展覧会をさせていただいたという縁がありまして、福島の美術館の方、大学の方には縁がありました。それで、とてつもない災害が起きて、僕も心を痛めまして、すぐに美術館の関係者に連絡を取ったのですがなかなか連絡が取れないと。日本全体が絶望的なこういう状況になっているときに、なんとかアートで状況を変えたいという思いから、福島には通いながら美術館でワークショップをさせていただいたり、子どもたちに勇気づけようとしたりとか、人として何ができるんだろうということをいろいろとやっているうちに、作品をもって社会を変えていきたいということで、この子どもの像を、本当に2011年みんなが心折れそうなときに元気が出るような子どもの像を作って、日本から世界に発信していくというつもりで、当時このサン・チャイルドという子どもの像を、防護服を脱いでも思いつきり空気が吸える世の中をイメージできる、そういうものを作りたいということで作りました。無我夢中で、京都の大学生と一緒に。</p> <p>それがいろんな場所で、大阪、東京そしてモスクワ、イスラエル</p>

市長	<p>と世界まで展示させていただくことになったのですが、2012年には福島ビエンナーレという福島空港のところでも、たくさんの人のクラウドファンディングによって運ばれて、毎年毎年そういう形で福島の方々と関わっているうちに、いろんな人々と関係ができ、いろんな方々の協力ではほぼ毎年の割合で福島では展覧会を開催させていただくことになり、そしてこのサン・チャイルド、2011年に作った作品に対して、福島の方々が非常に、ある種の愛情をもって思いを寄せていただいて、僕自身も当初はやっぱり今の状況を変えたい、無我夢中で作った作品だったんですけど、もちろん福島の方々のことを思いながら作ってきた作品だということで、そういう風な思いをいただけるならば、ぜひ寄贈させていただきたいということ、2年ほど前から伝えていたのですが、この度市長の強い思いで、こむこむという本当に子どもの施設、未来から来た子どもの像のこの作品が受け入れられる、招かれることになって、とても感動しております。感謝しております。</p> <p>この作品を迎えるにあたって、ぬりえのプロジェクトで、小学生の方に缶バッジを見てもらったり、あるいはこのサン・チャイルド、男の子か女の子かわからない子どもの像なのですが、その作品にニックネームを付けていただいて、作品をより身近なものに感じて、自分たちの街の一つのキャラクター、シンボルという風な思いで、今後明るく開けていく未来の福島を担っていく子どもたちに、この作品に寄せていただければなと思っております。なので、ぜひこのニックネームの募集というのは、教育委員会の方々の協力で全小学生に伝えていただくということで、僕自身もどんな名前になるのか楽しみにしています。僕も、市長も、未来研究会の佐藤さんもそれを審査して、ニックネームが決まれば、とびきりのプレゼントを僕も用意していますので、たくさんの方に、子どもの方に応募していただければと思っております。</p> <p>今サン・チャイルド自身は日本には3体あって、2011年に一生懸命世界に発信するために作った3体のうちの1体は大阪に立っていまして、今度福島に来るサン・チャイルドというのは、1番最初に作ったもので、記念すべき1番最初にこの世の中に生まれたこのサン・チャイルドを持って来るために、今京都の造形芸術大学の方で、一生懸命屋外で恒久設置できるように頑張って修理しております。でも本当にたくさんの方々に招かれて、来させていただけるという意味ではとてつもない幸せを感じていますので、この作品を愛していただけるかと思っております。生みの親は僕ですけど、育ての親は福島になると思います。よろしく願います。</p> <p>ありがとうございます。</p>
----	--

	<p>～写真撮影～</p> <p>質疑応答</p>
広報課長	<p>それではここで、質問をお受けしたいと思います。質問をなさる方は、挙手指名の後、社名とお名前をおっしゃってください。お発言の際はお手元のマイクのスイッチの操作もお願いいたします。それでは質問のある方、挙手をお願いします。</p>
記者	<p>まずこのサン・チャイルド、1番最初に制作されたものとおっしゃっていたのですが、1番最初に制作したのは何年、2011年でしょうか。</p>
ヤノベさん	<p>2011年の6月には制作を始めていました。</p>
記者	<p>2011年6月に制作を始めて、完成したのは？</p>
ヤノベさん	<p>完成したのは10月ですね。最初は大阪の、大阪万博会場跡地の太陽の塔の前で展示させていただいて、それは岡本太郎さんの太陽の塔というは、僕は幼いころから見ていて、1つのシンボルのような、日本を元気にする象徴だったので、その太陽のエネルギーを受けた太陽の子どものような気持ちで展示させていただいて、そこから東京であるとか、世界各国、福島に至るまでのツアーが始まったというかたちですね。</p>
記者	<p>もう1点、今回こうしたかたちで福島市への寄贈が決まったいきさつというのは、どういった流れがあったのですか。</p>
ヤノベさん	<p>2年ぐらい前、毎年毎年2011年から、ほぼ1年おきに展示させていただいたり、その間にいろんな方々と出会うことになって、このふくしま自然エネルギー基金の方々がちょうど、赤坂憲雄さんという方が運営しているオフグリッドというギャラリーで、エネルギー問題に関して作品を展開している作家を招きたいというときに、福島で僕がやってる活動を展示させていただいて、それがきっかけで、それ以前からサン・チャイルドについては非常に興味を持たれている方がたくさんいたのですが、寄贈していただきたいというきっかけで始まって、寄贈しますと。そして2018年、木幡さんがその話を聞かれて、それを市の方にぜひ展示したいという話になって、実際展示するにあたっては未来研究会の方の協力によって運ばれるという、そういう様々な方の前向きな、ぜひぜひというようなものに後押しされて、それならば作品も幸せだ</p>

【福島市】

	<p>し、僕も感謝の気持ちでいっぱいだというので、こういうかたちをすごくスピーディーにさせていただいたという経緯があります。</p>
<p>広報課長</p>	<p>他にございますか。</p>
<p>記者</p>	<p>改めてお伺いしたいのですが、最初に福島でサン・チャイルドを展示することになったのは福島空港とあるのですが。</p>
<p>ヤノベさん</p>	<p>そうですね、2012年の福島現代美術ビエンナーレという、これは福島大学の主催で行われていた芸術祭がありました。その時に、福島大学の渡邊晃一教授という、アーティストでもあるのですが、その方の企画で、作品をぜひ展示してほしい、特にこのサン・チャイルドは2011年に作っていたのですが、これを福島に持って来て、それを発信したいという話を受けて、輸送がかなり問題で、輸送機の問題だということだったのですが、クラウドファンディングということを行いまして、日本全国の方々に寄付していただいて、その輸送機をもって福島空港に展示させていただくことができ、それは半年くらいの期間だったのですが、それでたくさんの方々が福島に思いを寄せたり、作品を福島から見せたいという応援がたくさんあったということは非常に僕も嬉しかった出来事でした。</p>
<p>毎日</p>	<p>福島空港で展示した際にこういった手ごたえ、反応が寄せられたのかということ、今回福島市で常設されるということについてどのようなことを期待しているのかということ、を改めて教えてください。</p>
<p>ヤノベさん</p>	<p>2012年当時はやはり僕自身も、今作品を見せるタイミングかどうかという迷いはあったのですが、それは福島の方々に強く要望していただいたということで、実際設置するまでは正直どういう風に思われるのかな、こんなものを今持ち込んでいいのかなという思いはあったのですが、やはりこれは本当に明るい子どもの像で、希望にあふれる思い、そういうものを見る方々、子どもも大人も空港に来られる方々が感じていただいたというお答えを聞いて安心したなど、こういう関わり方もあるのだなという思いでその時は強く感じましたし、やはり全国の人々が、芸術が今福島を変えるのではないかという思いで寄付をしていただけたという、たくさんの方々の賛同を得られたというのはとても嬉しかったです。</p>

【福島市】

	<p>それで今回も、作品を求められている方がたくさんいたというのは存じ上げていたのですが、なかなか僕も福島にずっといるわけではないので、どういう受け止められ方をするのかということ自体も、そこまでなかなか理解しがたかったのですが、やはり今説明させていただいたように市長をはじめ、たくさんの方々の強いプッシュによって、こういう状況、今でこそこれは福島から発信するべきだという強い思いに押されて、そういった形で、みんなが今ポジティブに行動を起こそうとされているという思いが伝わったので、それは全面協力で力を合わせさせていただきたいという思いだったので。僕としても作品を作る2011年の時点では自分の表現とか自分の作品というよりも、何かしないといけない、人として。僕にできることはものを作ることだけだ。じゃあそれで何かできるのかなという思いだけで作った作品で、これがどこに設置されるのかとか、どうなるのかということよりも、今これでなんとかしたい、そしてたくさんのお学生たち、若い人たちも協力してくれた作品でもあるので、まさかこんなかたちでいろんな思いが福島につながるとは思っていなかったもので、ある意味夢のような出来事が起きたなという意味でも感謝の気持ちしかありません。</p> <p>これをきっかけに、もしかしてここから、文化芸術で、何かこの東北の地が変わるのではないかというきっかけにちょっとでもなってくれたら嬉しいし、市長もそういうことも考えておられると思っております。</p>
<p>広報課長</p>	<p>それでは予定通りの時間が参っておりますが、ご質問のある方を最後のお1人に、ご質問の方はさせていただきたいと思っておりますが質問ございますか。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>ヤノベさん</p>	<p>ありがとうございました。</p>
<p>広報課長</p>	<p>ヤノベケンジ先生の作品なのですが、福島県立美術館で現在ラッキードラゴンの構想模型とサン・チャイルドの10分の1模型が展示中でございますので、そちらの方も併せてご覧いただければと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>本当にありがとうございました。皆さん、先ほども言いましたけど、県内では原子力災害に対する思いがいろいろあると思います。それに関するようなことが、もう一切消し去りたいという気</p>

【福島市】

広報課長	<p>持ちの方もいらっしゃると思います。</p> <p>我々はこれからどんどん希望を持って前に前に進んでいかなければいけないですけれども、でもやっぱり原子力災害を受けたというこの事実、あるいはその我々のつらい思いを風化させてはいけないと思うんです。そういったことを風化させることなく、希望を持って前に進むという選択を、本当に私は福島のシンボルになる作品だと思います。</p> <p>それが本来、福島県で本当に設置していいかという議論もあるかと思うのですが、そこは福島という名前が付いたわが街で、展示をするのが、私は1番いいのではないかとあって、今回ぜひ福島市に寄贈いただきたいということでお願いいたしました。今回こういうことで実現いたしまして本当に嬉しく思いますし、これは福島市だけではなくて本当にこの福島の思いを県内の多くの方々、そして全国・世界の方々にこの福島の地で見いただくことが特別な意味があるのではないかと思います。よろしく申し上げます。</p> <p>ヤノベケンジ様、どうもありがとうございました。 以上をもちまして臨時記者会見を終了いたします。</p>
------	---